

学力調査等の状況	
<p>全体の正答率は、都平均と比較し、算数は同程度、国語はやや低めの結果となった。正答数分布を見ると、概ね都平均と同分布となったが、両教科とも中位層により多く分布している傾向にあった。①「知識・技能」における漢字の読み書きや計算については、都平均をやや上回り、基礎学力を身に付けている。昼モジュールを設定したり、宿題等で基礎学習を継続したりしてきたことが結果に結び付いたと考える。②思考力・判断力・表現力をみる問題においては、図を基に意味を考え、式や言葉を用いて説明する場面で正答率が高い傾向にあり、問題解決学習を進めてきた結果が表れた。反面、目的や意図に応じて内容を捉える場面や、特徴を捉えて考察する場面でやや低い傾向にあった。</p>	

見えてきた課題	
<p>①知識・技能の力はついてきているが、思考・判断・表現力はさらに伸ばしていく必要がある。個別指導するなど基礎学力の定着を引き続き図るとともに、児童自らが考える力を高める手立てが必要である。学習意欲を高め、主体的に学ぶ問題解決学習の過程を今後とも大切にしていきたい。 ②データを読み取る力、自分の考えを表現するなどの活用する力を伸ばしていく必要がある。国語や算数だけでなくとどまらず、他教科においても資料を有効に活用し、さまざまな場面で定着を図りたい。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	学習課題をきちんと把握したり、既習事項を想起させたりするなどICT機器の活用により、視覚的に捉えやすいようにし、個人に合った表現方法の選択肢の1つとして活用できるようにする。
見通しをもたせる導入	導入時に既習内容を振り返り、見通しをもたせる発問の工夫をしていく。知的好奇心をかき立てる言葉の投げかけや、児童の思考に働きかける問いを吟味していく。
振り返りの設定	自分の学習状況を理解し、主体的に学ぶ姿勢を伸ばしていく。身に付けた力を自己評価させたり、学習の見通しをもたせたりすることで、学習意欲を育む。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を活かした授業展開や、個別支援の工夫を行うことで、基礎的な力を定着させる。</li> <li>○一人一人が意欲的に学習できるようにめあてを明確にし、児童自身が単元の流れをとらえられるようにする。</li> <li>○モジュールの時間を効果的に活用し、言語活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の付録や教室掲示にある文字の表などを活用し、支援の手立てとする。</li> <li>○プロジェクターを活用してノートの基本的な書き方を指導し、学習したことが分かるようにする。</li> <li>○朝読書・朝モジュールを活用し、語彙を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル教科書を活用し、本文にアンダーラインを引いたり、挿絵を拡大したりして、児童の理解を深めていく。</li> <li>○単元の流れが分かるワークシートを作成したり、単元計画を立てたりしてめあてを明確にする。</li> <li>○慣用句やことわざなどを、辞書で調べた活動を通して、語彙を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考えたことや、振り返りなどの場面において言葉でまとめたり、発表したりすることにより、思考・表現力を伸ばしていく。</li> <li>○教材からつながる慣用句や類義語・対義語といった言葉や現象などを紹介し、児童の語彙力や興味を広げる。</li> <li>○漢字の読み書きや言葉の意味を確実におさえ、言語に対する理解力をあげる。</li> </ul>
社会科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだことについて、色を効果的に使ってまとめたり、図や表を用いて見やすくまとめられるようにする。</li> <li>○資料を読み取る力や考える力を養うために、ICTを活用するなど、資料の提示を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</li> <li>○中学年からの学習につなげられるように、身近な場所、施設を大切に正しく利用できるようにすることを通して、地域への興味、関心を高める。</li> <li>○大事なことに着目させやすい資料や図書を準備したり、検索させたりして資料からの気付きをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の終わりに、ノートや新聞に学習内容を振り返らせることで、色や図を用いてまとめられるようにする。</li> <li>○ICTを活用し、資料を拡大して児童に提示することで、資料の読み方を理解させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容や、資料から読み取れることなど、ノートの書き方について、見本を提示しながら、まとめる力を伸ばしていく。</li> <li>○chromebookを積極的に活用し、資料の提示や、個々の考えを共有し合うなど、児童が主体的に取り組めるような授業実践を工夫して行う。</li> </ul>
算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ベーシックドリル・学習支援コンテンツ・計算ドリル等を活用し、計算力をはじめとした基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。</li> <li>○モジュールの時間を活用し、計画的に基礎学習の反復練習をして、基礎基本の学力向上を図る。</li> <li>○問題解決学習を通して、問題提示の工夫や話し合い活動を充実させ、思考力、判断力、表現力とともに、意欲向上を図る。</li> <li>○デジタルコンテンツを活用して、学習理解を深めるとともに、プログラミング教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題やモジュールの時間に計算ドリル・学習支援コンテンツなどを繰り返し活用することにより、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。</li> <li>○分かりやすい発問をするとともに、ペアタイムなどで自分の考えを話す時間を確保する。</li> <li>○既習事項の活用を大切にしていき、算数コーナーを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モジュールの時間に学習支援コンテンツを活用し、それぞれの単元を反復練習させ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○既習の確認をして解決の見通しをもたせ、自ら考え出せるような発問や支援の工夫をしていく。</li> <li>○自分の考えを発表する場を意図的に設定し、考えの交流を図る。</li> <li>○分かったことや考えたことの振り返りをする中で、主体的に学ぶ姿勢を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題やモジュールの時間を活用しながら計算等基礎学力を身に付けさせる。</li> <li>○児童一人一人が見通しをもてるような教材や発問などの工夫をし、考えを交流し合って表現力や思考力を高める。</li> <li>○デジタルコンテンツを活用して、基礎的なプログラミングの方法を知る。</li> <li>○分かったことや考えたことを自分の言葉で振り返らせ、主体的に学ぶ姿勢を高める。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考えの交流を通して、他者と関わりながら、すすんで問題解決できるようにする。</li> <li>○実験・観察の機会を多く設けることにより、誰もが器具の操作を確実に行うことができるようにする。</li> <li>○課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究の過程をノート指導や掲示などで身に付けさせ、自ら課題設定できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</li> <li>○中学年からの学習につなげられるように、身近な自然を観察したり、生き物を飼って育てたりする活動を通して、自然を愛する心を育てる。</li> <li>○自分の言葉で、分かったことや考えたことの振り返りをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や考察の際に、意図的に話し合い活動を取り入れていく。</li> <li>○実験や観察の分担を明確にし、全ての児童が経験できるようにする。</li> <li>○ノートの書き方に合わせた板書を工夫することで、探求の過程が身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が確実に自分の考えをもつことができるような発問、声かけをしていく。</li> <li>○器具を操作する時間や機会を多く設けることによって、器具の扱い方に慣れさせるようにする。</li> <li>○実験結果や考察など、ノートへのまとめ方の見本を提示しながら、自分の言葉でまとめる力を養う。</li> </ul>

授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人・もの・自然にすすんで関わる学習活動を展開できるようにする。</li> <li>○活動の中で、児童の創意工夫や気付きをふくらませ、日常生活につなげていく。</li> <li>○学習成果を発表する場を設け、友達よさに気付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の中で、意見交換をする時間を設定することで、すすんで、人・もの・自然に関わるようにする。</li> <li>○ICTを活用することで、そのときだけでなく、写真や動画で振り返り、気付きを膨らませていく。</li> <li>○振り返りの時間を設定し、自分のよさや友達よさに気付けるようにする。</li> </ul>		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発声や奏法等の基礎を身に付け、思いや意図をもって創意工夫し、豊かな表現ができるような支援をする。</li> <li>○授業や校内外の発表の場を通して、互いに高め合い、協調しながら音楽を楽しもうとする心情を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鍵盤ハーモニカの正しい演奏方法を徹底するとともに、どの領域でも様々な曲調の楽曲を取り扱い、表現意欲を高める。</li> <li>○授業内でペア・グループ活動等を積極的に取り入れ、よいところを褒め合うなどの時間を設け、互いに高め合える時間を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの正しい演奏法をはじめ、音楽記号や新出楽語の意味を理解させ、豊かな表現をするために、スモールステップで技能を高める。</li> <li>○ペア・グループ活動や発表の機会を積極的に取り入れることで、主体性を育み、互いが共に成長できる時間を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱や器楽の様々な奏法を定着させるとともに、楽曲にふさわしい表現を考え、実践できるよう、基本に立ち返りながら技能を高める。</li> <li>○グループ活動を通して、仲間とともに創意工夫をしながら合奏や音楽づくりを行い、主体的・協働的に活動することができる時間を設定する。</li> </ul>
図工科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○造形活動を楽しむとともに、よりよい作品をつくらうとする意欲を育てる。</li> <li>○作品の鑑賞や創作過程で、お互いの頑張りやよさを認め合い、伝え合うようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近で扱いやすい材料や用具の扱い、児童が表したいと思うことを基に工夫を考える授業を行う。</li> <li>○自分たちの作品や身近な材料の造形的な面白さや楽しさに着目できるようにし、見方や感じ方を広げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年で制作に使った材料や用具を適切に扱うとともに生活に繋がる図工を目指した作品制作を取り入れていく。</li> <li>○自分たちの作品や身近な美術作品の鑑賞を通していろいろな表し方を学び、感じ方の違いを学ぶ。</li> <li>○振り返りを通して、作品の進捗状況を自覚しながら計画的に制作を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現方法に応じて材料や用具を活用し中学年までに得た経験や技能を総合的に活用する制作を行う。</li> <li>○親しみのある作品の鑑賞に取り組み、諸外国の文化や生活の中の造形について表現の意図や特徴、表し方の変化を感じ取るようにしていく。</li> <li>○鑑賞で作品の写真撮るなどICTを使用していく。</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調理や裁縫の実習を多く設けることにより、実生活に結び付く力を育てる。</li> <li>○裁縫の学習においては、実生活に活用できるような作品作りを心がけ、日常生活に活かしていけるようにする。</li> <li>○「住」においては、清掃や換気の仕方などを日常生活から健康や安全を意識して過ごせるよう、継続的に行っていく。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習したことを家庭で取り組めるような課題を設定し、家族の一員として生活をよりよくする態度を育てる。</li> <li>○調理については、感染症対策に十分に配慮して実習を工夫して行うことにより、中学校での学習や、日常生活につなげられるようにする。</li> </ul>
体育科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの体力テストの結果より、学校全体として、体力の基礎である走力の向上が求められる。そこで、全校児童を対象に、多様な動きをつくる運動や体の動きを高める運動、固定施設を使った運動などに年間を通して取り組ませることにより、運動や遊びの日常化につなげる。</li> <li>○体力向上強化週間として年に3回、中休みに全校でマッスルタイムを実施する。1学期には、短距離走(リレー)、2学期には長縄跳び、3学期には持久走(マラソン)を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外遊びを習慣化させ、運動や遊びの日常化を図る。5種目チャレンジをはじめ、様々な動きに取り組む機会をつくる。</li> <li>○体を動かすことが楽しいと感じられるように工夫する。</li> <li>○マッスルタイム、体育集会と授業を連携させ、運動量を確保して継続的に体力向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動が苦手な児童に対して、場や教具を工夫して段階的に取り組めるようにする。</li> <li>○5種目チャレンジやマッスルタイムと授業を連携させ、運動量を確保し、継続的に体力向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外遊びを習慣化させ、運動や遊びの日常化を図る。5種目チャレンジプロンズに合格できるよう、自己の目標を立てて取り組ませる。</li> <li>○運動量を十分に確保し、体力の維持・向上を図る。また、自分に合った場を選択したり、友達と学び合ったりできるようにしていく。</li> </ul>
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えを伝え合う。</li> <li>○外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル教材を活用し、表現を学んだり練習したりすることによってコミュニケーションがとれるようにしていく。</li> <li>○ペア活動、グループ活動を通して、学んだ表現を使いながら自信をもって外国語を伝え合う活動をしていく。</li> </ul>

授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科と関連付け日本の伝統文化に触れる体験活動(藍染、茶道、和楽器、むかしあそびなど)を取り入れ、日本文化のよさや楽しさを味わわせ、理解を深める。</li> <li>○chromebookを活用して情報を収集、整理、発信する等、主体的に学習できるようにする。</li> <li>○レガシー教育を行う中で、障がいや人種の多様性を認め、助け合う心情を育てる。</li> </ul>	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レガシー教育を意識した授業を行い、福祉についての理解を深める。</li> <li>○地域と連携し、ゲストティーチャーとの授業を通して、日本文化のよさや楽しさを味わわせ、理解を深めていく。</li> <li>○chromebookを活用する方法を理解させるとともに、情報モラルについて学んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科と関連付けて日本の伝統文化にふれる活動を行い、日本文化のよさなど理解を深めていく。</li> <li>○各教科と関連付けてchromebookを活用した活動を引き続き積極的に行う。情報モラルについて学ばせながら指導し、情報を収集、整理、発信する力を身に付けさせていく。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己を振り返る時間を保障する授業展開をくふうする。</li> <li>○児童一人一人が、内容項目を深く掘り下げて考えたいと思える発問を工夫する。</li> <li>○いじめ未然防止、早期対応につなげるためにいじめに関する授業を計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳ノートを活用し、自分の考えを書いたり話し合ったりすることで、自己を振り返ることができるようにする。</li> <li>○中心発問に至る初発問を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を活用して、事前にアンケートを実施し、児童の実態に合った授業展開を工夫する。</li> <li>○価値項目が理解できるように授業の発問を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を活用して、児童がより場面をとらえやすいように、発問について深く考えるきっかけとなるようにする。</li> <li>○ワークシートを利用して、じっくりと振り返る時間を取れるようにする。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事ごと(運動会、学芸会、子供フェスティバル、縦割り班活動など)に異学年交流を行い、協力し、助け合う気持ちや思いやりの心を育てる。</li> <li>○学級活動だけでなく、児童会活動やクラブ活動などで、話し合い活動を充実させ、合意形成を図ったり、意思決定したりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異学年交流では、上級生たちの話を聞きながら協力して行えるようにしていく。</li> <li>○ペアやグループで話す機会を設け、意見を言いやすい環境を作る。</li> <li>○係活動や当番活動において、活動のしかたを覚え、声をかけ合えるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意図的・計画的に異学年との交流の場を設ける。活動後に交流相手に手紙を書くことで、達成感を味わえるようにする。</li> <li>○係ごとに話し合う必然性を生むために、係が活躍する場を定期的に設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後においても行われる異学年交流に向けて、下学年が楽しむことができるような企画を考えていく。</li> <li>○ペアやグループなど少人数で話す機会を設けて、児童一人一人が意見を言いやすい環境をつくっていく。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童がその時間に獲得する内容を理解できるように、ALTと担任によるデモンストレーションを取り入れるなど、授業展開を工夫する。</li> <li>○デジタル教材を活用し、繰り返し視聴することによって、外国語での様々な表現に慣れ親しむ。</li> <li>○授業後に振り返りの時間を取り、自身の成長を児童が感じられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し外国語を聞いたり話したりすることで、外国語に慣れ親しむ。</li> <li>○体を動かしながらペアや全体で表現をして、外国語を伝え合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル教材のチャンツを活用し、繰り返し英語表現に親しめるようにする。</li> <li>○ゲームや一斉指導を通して表現方法を身に付け、その後ペア学習を行うことで、自信をもって活動に取り組めるようにする。</li> <li>○振り返りをカードに書かせることで、児童自身が成長を感じられるようにする。</li> </ul>	/